

工場別車種別受持表

支社別	工場別	蒸気機関車	電気機関車	特殊機関車	電車	気動車	客車	貨車
北海道	釧路	○						○
	旭川					○	○	○
	苗穂	○		○		○		○
	五稜郭						○	○
	計							
東北	盛岡				○	○	○	○
	土崎	○					○	○
	郡山	○						○
	計							
関東	新津					○		○
	新小岩					○		○
	大井				○			○
	大船						○	
	大宮	○	○	○		○	○	○
	計							
中部	長野	○		○	○	○	○	○
	浜松	○	○	○			○	○
	名古屋					○	○	○
	豊川				○			
	松任	○	○		○		○	○
	計							
関西	吹田				○			○
	鷹取	○	○	○			○	○
	高砂					○	○	○
	後藤	○		○			○	○
	多度津	○		○		○	○	○
	計							
西部	広島	○		○				○
	幡生				○		○	○
	小倉	○		○		○	○	○
	若松							○
	西鹿兒島	○				○	○	○
	計							
合計		14	4	9	7	12	17	25

残っている)など特殊なものもある。

また用品倉庫長は工場長の命令を受けるだけでなく、地方資材部または資材事務所の現業業務をも分掌して、貯蔵品庫 O、予備品庫 Oヨ を管理し、工場および区における資材と用品事務を行っており、工場技能者養成所は新たに採用する職員を工場中堅技工として養成するほか、工場職員の再教育も行っている。これらの組織に附属して職員の福利厚生機関として、配

給所・食堂を経営する事業所 ㊦ があるほか、専属の医療機関としては診療所 ㊦ があり、そのほか厚生寮等をもっているところもある。

写真に示す工場図はわが国における1つの代表的な工場設備の例を示したものであるが、その中で鉄道工場独自のものとしてとくに眼を引くものについて述べる。

まず1番目がソーダ煮洗場であるが、入場してバラバラに解体された修繕部品が詳細に検査されるためには、完全に清掃されなければならない。解体された部品はすべてソーダ液槽の中で煮沸されて、附着した汚物を取除かれる。とくに大形な車体、台車などや塗粧の剥離や新塗粧などの目的のためには、これによらず砂噴場において圧縮空気を使って砂や銹鉄片を吹きつける方法をとっている。また洗管場は解体された煙管の水あかを落す設備であって、従来は機械的に煙管どうしをたたき合わせる方法を用いていたが、最近では砂噴装置と同様な銹鉄片の噴きつけによる方法も利用している。さらにまた修繕を完了し出場してゆく車両に必要な設備としては、動力車ではその各種性能が完全に発揮されるまで調節整備をする設備としての整備室や、車両の運用上重大な意味をもつ軸重の測定を正確に行う設備である計重所や、有がい貨車の雨漏りを発見してその修繕の完全を期するための雨漏試験場などが挙げられよう。

鉄道工場は経理上中間勘定として別個の勘定科目の中で独特の工場経理規程の適用を受けているほか、とくに他の現場に見られないものとしては、工場技工に適用されている賃請制度がある。工場作業が詳細な時間測定によって分析され、積上げられた単人工(にんく)を基礎として計画され、請負によるむだのない作業によって運営されてゆくところに、その生命ともいうべき、車両の安全性に対する高い信頼感が生れてくる大きな原因があるといえよう。鉄道「工場」は一般には「こうば」と読むが、名称を冠した場合は「○○こうじょう」と読む。(片岡博)

てつどうこうしんきょく 鉄道行進曲 昭和27年、わが国

鉄道開通80年

を記念して募集された新鉄道歌。

1等当選歌(足

利市、戸倉広秀)

を鉄道行進曲と

題し、西条八十

が補作し、堀内

敬三が作曲、昭

和27・9・20鉄道

公報および関係

新聞に発表した。

歌詞(第1章)

花の東京い

ざさらば

首途(かどで)うれしき汽車の旅

つばめよ、はとよひと飛びに

ゆけば心も雲も飛ぶ

みどりの野山、光る海

箱根と伊豆の湯のけむり。(岡部蔵造)

てつどうこうほう 鉄道公報 公報とも呼ばれ、国鉄における業務上の命令その他を伝達する機関紙である。関係法令、総裁の命令や訓示、執務上の注意事項などを全役職員に徹底させるために掲載するほか、辞令、賞罰等をも掲載する。発行者は、

